

2025年8月7日

今月のひとこと

【Vol.272】今月のひとこと

今月のひとこと

生き延びる力～戦中・戦後の聞き書き（前半）

FIWA みんなのお金のアドバイザー協会® 会長 岡本和久



1945年8月15日、玉音放送によって太平洋戦争が終わりました。2012年の8月と9月、二か月に渡って私は戦災の体験者のお話を聞き、それをインベストライフに掲載しました。戦後80年目の今年、戦争を体験した方々も減っていらっしやいます。インタビューをさせていただいた方の多くも鬼籍に入られています。この時の取材は非常に価値あるものだったと自負しています。ご協力いただいた方々の体験を風化させないためにも今月と来月のインベストライフではその時の取材記事を再掲させていただきます。ぜひ、お読みください。（なお、記事は私が取材録音したものをできるだけ忠実に文章にしたものです）

8月号掲載

- ・ 壮絶な引揚げ、極貧の戦後を生き延びてつかったもの 上田卓さん、上田早苗さん
- ・ 若いときの苦労は買ってでもしろ！ 田中義博さん
- ・ 空襲敢闘記 岡本 茂和（岡本の父の手記）

9月号掲載

- ・ 初めて見る日本は緑がきれいだった 鳥山百代さん
- ・ 1941年に哈爾濱（ハルビン）で体験した敗戦 宮崎一幸さん
- ・ 後記にかえて対談：島田知保さん、岡本和久

これらで語られているような苦難の時代を生き延びて終戦を迎えました。終戦後、約10年を経て経済白書が「もはや戦後ではない」と宣言をするまでになりました。その間に起こった経済・証券市場に関係する主な出来事を年表にしておきます。

- ・ 1945.8 終戦：760万人の復員兵士、150万人の引揚者 軍需産業の生産停止で400万人失業 米作は平年並みの三分の二という未曾有の凶作 昭和20.8の鉱工業生産は戦前昭和9～11の平均に比べ十分の一
- ・ GHQによる五大改革：婦人の解放と選挙権付与、労働組合の結成奨励、学校教育の自由主義化、専制政治の廃止、経済機構の民主化
- ・ 1946.11 新憲法（国民主権 戦争放棄 男女平等） 株式取引所は1945.8より休業 証券会社は宝くじ販売で糊口をしのぐ
- ・ 1946.4 GHQの許可のもと、株式の集団取引開始
- ・ 1946.1 預金封鎖 新円発行 財産税
- ・ 1946.11 新憲法制定
- ・ 1946 ソニー、ホンダ創業
- ・ 1945～1947 財閥解体
- ・ 1947.11 証券民主化運動
- ・ 1948 ドッジライン 経済安定策
- ・ 1949.6 証券取引所再開 1ドル＝360円 株価は再開後、低迷
- ・ 1950.6 朝鮮戦争勃発 朝鮮特需 三種の神器
- ・ 1951 戦後初の投資信託発行

- 1956 「もはや戦後ではない」（経済白書）

FIWA主催のセミナー情報

下記のサイトをご覧ください。



今月号の記事をすべてダウンロード

このページを印刷する

カテゴリー

今月のひとこと

タグ

【Vol.272】2025年08月15日発行

2025年8月7日

FIWAサムライズ勉強会

【Vol.272】FIWAサムライズ勉強会より

クオリティ・グロースとは何か。なぜ長期投資に適しているのか（講演）

山本 潤(やまもと じゅん) 氏
なかのアセットマネジメント株式会社
運用部長/チーフポートフォリオマネージャー

私は「なかの日本成長ファンド」のポートフォリオマネジメントをしています。投資スタイルはクオリティ・グロースです。クオリティ・グロースとエンゲージメント、この2つを軸に運用しております。クオリティ・グロースとは、バリュー投資ではなく、グロース投資という意味でのグロース。企業の純利益を株主資本で割ったものをROEと言います。このROEは極めて大事な業績の指標の一つです。私たちはこれに最も注目をしています。基本的にROEは株主価値の年率の増加ベースの一番重要なものになってくる。正確には株主資本というものは、ROEに「1—配当性向」をかけたものが基本的な教科書の株主資本の成長率、配当成長率でもあります。我々は、配当を各企業からもらって、それを即座にファンドに再投資をします。つまり基本的にはファンドの平均的なROEで再投資をするため、ROEという高さがグロースである。では日本株の場合このグロースと言える高さはどのぐらいなのか。上場企業の平均ROEは改革の成果があって、大体9%ぐらいにはなっています。我々は今期ベースで、平均予想ROE14～15%の水準になっています。つまり市場平均と比べて5ポイントぐらい高いROEになっている。これをもってグロースとしています。もう一つクオリティと言われているものは、ROEは純利益が分子にくるので、どうしても業績によって毎年大きく変化するものもあれば、あまり変化しない企業もあります。利益の変動が大きな企業と利益の変動が非常に小さい企業と2つあります。我々の言っているクオリティとは変動が少ない。つまりROEのブレが少ない。言い換えるとROEの安定性が高い。指標としては例えば過去10年の平均の高さがグロースであり、過去10年のROEの標準偏差が小さいもの、これがクオリティです。平均÷標準偏差の比率が高いものをクオリティ・グロースという形でカテゴライズ、定義しております。



山本 潤 氏

なぜこのクオリティ・グロースが大事かと言うと、私たちは、トップダウンの戦略で「今年はトランプが大統領だからこうしよう」とか、「防衛予算が増えるから防衛株を増やそう」というようなやり方をしていません。どちらかというと長期の積み立てをするお客様をメインの顧客として捉えています。例えば30歳40歳50歳の方々が引退するまで積み立てをする。その後すぐに全部解約せずに、例えば65歳で引退された後もちょっとずつ取り崩しながら、残高を利用しながら毎月の生活に当てていく。そういうことを考えるとやはり80歳90歳100歳といったところまでお付き合いが相当長いわけです。だから今50歳の方が例えば80歳になった場合、30年の猶予があります。そういう長いスパンでファンドを設計しています。そういう設計であるからこそROEの高さと安定度というのが非常に大事になってくると考えます。なかのアセットといえばクオリティ・グロースのブティックハウス、エクイティハウスの中でクオリティ・グロースに特化した専門集団を作るんだ！という気持ちで、この会社の運用部長をしております。このクオリティ・グロースだといったことは複利効果です。

一方エンゲージメントは、企業との意味のある対話ということです。我々のエンゲージメントはROEを向上させるべく分子である利益の安定性や、利益の収益性が高くなるようなことを企業に提案していく。つまり儲かってないものがあれば、どうしてそれをやる意味があるのかということとしっかりと議論する。あるいは過剰だと思われる有休資産や遊んでいる資産、持ちすぎているキャッシュがあるのであれば、そういったものは、より良い事業に再投資する。もしくはより良い投資シナジーのあるM&Aに回す。あるいはそういったものがどうしても見つからない場合は、自社株買いか配当に回す。PBRが高い会社については自社株よりも配当のほうがいいのか。そして自社株の買い方が、メッセージ性があっていいのか、いろんなことをどう考えているんですか？ということエンゲージメントによってROEが下がらないように対話をしていく。企業は社員もいますし永続的な存在として今やらなければいけないことがたくさんある。それにはすぐさま収益に結びつかないようなものを今やっとかないといけないというケースがどうしても出てきます。例えば環境対応の投資といったものはそういったものになります。あるいはキャパシティがもう足りない。そのときは、結構スケールの大きな新しい設備を作るとなると一時的にすごく収益性に影響を与える可能性がある。そういったところで投資家との軋轢はどうしても企業と投資家の間には出てきます。そこを本当に企業と話し合っ、ちゃんとこれでも必要なことだよなと、我々が納得するなら甘んじてそれを受け入れます。いやもっと工夫すべきではないのかということ企業に対して提案する。このエンゲージメントは今期4つぐらいの企業に対して、ものすごく一生懸命やっているところです。

講演では、資産形成における複利効果の重要性を説き、複利効果を得るために最も適している投資スタイルはクオリティ・グロースであることを解説。骨太のアクティブファンドとして一貫性と専門性を高めていくこと。そして、ゆるがない投資哲学を熱く語っていただきました。

このページを印刷する

カテゴリー FIWAサムライズ勉強会

■ 2025年8月7日

FIWA サロイン塾講演より

【Vol.272】FIWAサロイン塾講演より（講演）

投資信託を学ぶ

特定非営利活動法人 みんなのお金のアドバイザー協会 代表理事 会長
ファイナンシャル・ヒーラー 兼 投資教育家
岡本 和久CFA
レポーター：赤堀 薫里

（以下は7月20日に開催された第四回サロイン塾での岡本の講演の前半部分を要約したものです）



「将来の自分は今の自分が支える」という人生を通じての資産運用に不可欠な素材が、投資信託です。相場が上がるか下がるか、どの銘柄が大幅高するか下落するかは分かりません。短期の投資はまさに投機でしかない。マニアックな趣味の世界でやる人は、それはそれで構わないと思います。しかし非常に長期にわたって、将来の自分を今の自分が支える資産運用をする方には不適切です。

私が提唱する相場感無用、銘柄選択能力無用、経済予測無用、難しい投資理論無用、日々の投資情報も無用の5つの無用の資産運用の鍵は、投資目的に合った投資信託を選択することです。なお、投資信託は、時にはファンドや投信と呼ばれたりしますが投資信託のことです。

投資信託を選択する時に大事なことは投資哲学を買う。そして過去のパフォーマンスを過大評価しない。過去5年間良かったからこのファンドはいいと思うと、次の5年間はダメになるということが多いため、気をつけなければいけない。また、売り込まれたものを買うのではなく、本当に自分が必要とするものを選ぶ。重要なのは運用会社がどういう運用をするかということです。私が考えるいい投資信託を運用する会社とは、まず特化していること。そして特化した分野の運用が最適な形でできるような人材の配置がされている。特化した人材でなければいけない。人間もその分野でプロとしてずっと生きてきている人。そして、自社の運用に無駄な経費をできる限り削減して、お客様のために運用していくことが重要でしょう。

このようなことをアメリカでは5つのPという言い方をしています。まずフィロソフィー。運用するには、企業のビジョンやミッションがしっかりあって、企業がその運用に沿った歴史を持っている。資本市場の効率性、あるいは見通しを得意とする運用分野、分析の手法が運用哲学として確立されて持っている。それは非常に重要です。

私も実際ニューヨークにいた時に親しくしていた運用会社は、大型成長株に特化していました。小型株に関しては一切興味ない。でもそうはいっても、大型成長株が全然人気の圏外でバリュー株ばかり上がることがあります。その時彼らは、「自分たちはこの分野で最高の力を発揮できるので、相場がそこに向かない時は、マーケットに負けないような運用をする。ただそこで極端なプラスアルファを狙うことはしない。これは哲学だから。相場が自分たちに味方しないのあれば、それはそれで相場並みのマーケット並みのリターンを狙っていく。だけど、儲けるときには大きく儲けるんだ」と言っていました。

それからプロセス。これは社内の体制、運用の仕方がきちんと出来上がっていること。そしてピープル。これは人材。「私は成長株もできます。バリュー株もできます。小型株も選ぶのがうまいです。」そうではないです。やはり特化した人、その分野に生涯をかけてプロとしての道を歩んでいる人達でできた組織である。その分野の専門。そこにプロとしての自分の価値をかけているということです。そういう人たちが生み出すポートフォリオがファンドが長く続いて、そのパフォーマンスが哲学や運用プロセス、運用する人たちの質的なものを反映したものになっていること。それに基づいて銘柄選択が行われ、売買が行われる。そういうことがポートフォリオです。

そして最後がパフォーマンス。このようなフィロソフィー、プロセス、ピープル、ポートフォリオ。これらの全部の結果として出てくるのがパフォーマンスです。パフォーマンスで重要なのはスタイルドリフトをしないということ。スタイルドリフトとはスタイルが変わってしまうこと。「これからは成長株ですよ！小型株ですよ！」あるいは海外がいいというような特別に目につくようなところがあると、今までと投資方針を変えて、儲かるところに移ってしまう。

スタイルドリフトがないために重要なことがこの5つのPです。しかし、本当にパフォーマンス競争をしていると、日本のファンドでも時々あると思います。ついつい今儲かりそうなところを中心に移してしまう。でもそれは投資家が本来この運用会社に頼んだ内容とは違ってきてしまいます。そこに哲学があって、それを投資家が採用するというそこが変わってしまっはいけないのです。日本でもそこはこれからとても重要だと思います。

投資信託選びで重要な点は、純資産が大きく、投信会社にとって非常に大切な商品であること。どうでもいい小さいファンドは閉鎖されてしまうリスクがあります。そうすると積立投資を定年退職まで増やしていこうとずっとやっているのに、それが潰れてしまった、あるいは閉鎖されてしまうことは非常に大きなダメージがあります。純資産が大きくて簡単には潰れない。また対象ファンドが十分な収益を生み出して、その運用会社にとって非常に重要

であるということ。そして対象のファンドを運用するその経営方針が揺るがないこと。株主である組織が資産運用業務の将来性を理解していること。特に長期でやっていると、金融業界が大きな不況に陥ることも必ず遭遇します。その時に何が起きているのか理解できて、正しいことを続けていくことができることが重要だと思います。

講演では、投資信託関連の歴史を紐解き、投資信託のメリット、デメリットについて説明。また、インデックス運用とアクティブ運用の特徴についてわかりやすく解説してくださいました。

講演当日の動画は以下のサイトからごらんいただけます。

<https://youtu.be/tLdTWhAr5pE?si=nwNL2ENghjI7DLmm>

(文責FIWA®)

このページを印刷する

カテゴリー

FIWA サロイン塾講演より

タグ

【Vol.272】2025年08月15日発行

2025年8月7日

寄稿

【Vol.272】寄稿 インディ君活用法

連載：FIWAインディくん活用法

龍谷大学名誉教授
竹中 正治氏

投資シミュレーションソフト「FIWA®インディくん」の活用法
その7（最終回） 資産の将来シミュレーション

プロトタイプ版（無償）、本格版（年間利用料11,000円（税込））
<https://fiwa.or.jp/simulation/>（←インディくんのサイト）

引退後、資産を取り崩しながら運用を継続すると

前回はインディくんの「積立投資による将来の資産シミュレーション」の使い方の解説をしました。その時は引退時に投資系資産による資産形成を止め、その後はほぼゼロリスク・ゼロリターンの資産（流動性預金など）に乗り換え、それを取り崩しながら年金給付金と合わせて引退後の生活比に充当することを想定してお話しました。



竹中 正治氏

しかし今や「人生100年時代」です。65歳で引退しても90歳を超えて生きる確率は高いでしょう。その20～30年間で投資系資産による運用を止めてしまうことは、必ずしも合理的な選択とは言えません。そこで「4. 定額取り崩しによる将来の資産シミュレーション」を使って、運用を続けながら金融資産を取り崩すとどうなるか見てみましょう。

65歳時に5000万円の金融資産形成に成功したとします。NISAや確定拠出年金（企業型、あるいは個人型）で株価指数に連動する積立投資を40歳代の頃から続け、さらにサラリーマンでしたら退職一時金も含めれば、退職時に金融資産5000万円程度は中間所得層でも実現可能な資産規模だと既にお分かりいただけたと思います。

さて65歳以降毎月15万円金融資産を取り崩しながら年金と合わせて使うことにしましょう。余命は30年間で想定します。運用リターンゼロならば、27.8年（ $=5000/(15 \times 12)$ ）（27年10カ月）で資産はなくなります。そこでリスクを抑制するためにリターンを5%程度まで落とし、リスク12%で運用を継続するとどうなるでしょうか？運用元本は毎月引き出す15万円分減少しますが、残りの残高は5%で運用を続けるわけです。

ポートフォリオに国債を加えれば簡単にリスク低下

5%というリターンは内外の株価指数のリターンとしてはかなり低めですが、預貯金金利や国債利回りよりは高めです。例えば日本の10年物国債利回りは現在1.5%前後です。仮に株価指数の長期の期待リターンを8.5%とすると、金融資産の50%を10年物国債、残り50%を株価指数連動ファンドでの運用とすることでポートフォリオの期待リターンは5.5%になります（単純化のために税金は考慮していません）。以下の計算式をご参照ください。

株式運用期待リターン 8.5% （比率50%）
債券利回り（確定） 1.5% （比率50%）
ポートフォリオの総合利回り $5.0\% = 8.5\% \times 0.50 + 1.5\% \times 0.50$

この場合、ポートフォリオの変動性としてのリスクがどの程度になるかは、国債価格と株価の相関関係に依存しており、単純な算術計算はできませんが、一般的な内外株価指数のリスク（15～20%）を前提に、12%程度とアバウトに想定しました。

さて以上の想定を次のようにインディくんの画面に入力します。

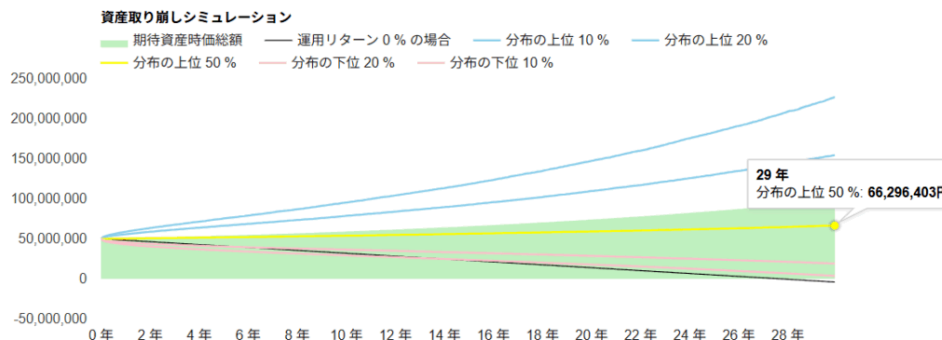
01. 取り崩しの年数	30 年
02. 引退時（あるいは現在）のリスク性資産保有額	50,000,000 円
03. 想定リターン（年率）	5 %
04. 想定リスク（年率換算標準偏差）	12 %
05. 月間取り崩し額	150,000 円

あとは「計算する」のタブを押すだけです。すると以下の結果が出力されます。

資産残高がほぼゼロになるまでの年月

06. リターンゼロ%の場合	27 年 10 ヶ月
07. リターンが想定リターンで一定の場合	ゼロにはなりません。
08. 分布の上位 10%	ゼロにはなりません。
09. 分布の上位 20%	ゼロにはなりません。
10. 分布の上位 50%	ゼロにはなりません。
11. 分布の下位 20%	ゼロにはなりません。
12. 分布の下位 10%	ゼロにはなりません。

データ・ダウンロード (CSV)



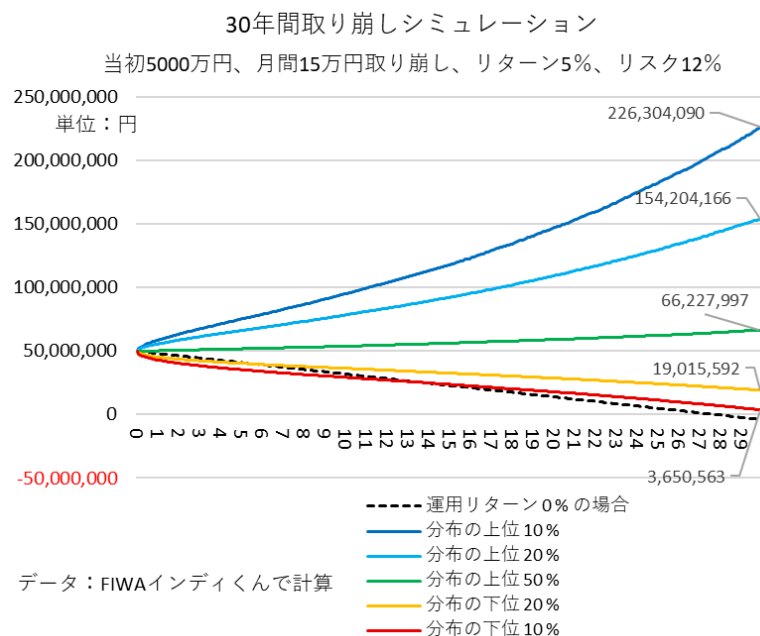
飛躍的に資産寿命が伸びる

30年後（満29年経過後）の結果は、やはり幅のある確率分布として得られますが、運の悪い場合の下から10%目でも残高はゼロにはなりません。黄色線が示す中央値ではなんと6623万円と引退時の5000万円より増えていきます。インディクんのスクリーン上のグラフに描かれたラインにカーソルを落とすと、その時点での資産額が表示されます。

この図のままでもよいのですが、グラフの右上の「データ・ダウンロード (CSV)」をクリックするとデータをダウンロードできます。ダウンロードしたデータはExcelファイルの形態で保存し、自分で好きなようにグラフ化できます。以下の図はその例です。

なんと幸運な場合の上から10%目では資産総額が2億2630万円に増えます。不運な下から10%目でも365万円の資産が残ります。運用リターンゼロ%の場合には27年10カ月でゼロになる場合と比べて、資産の寿命は遥かに伸びることがわかります。

もちろん、引退後いつかで再び「***ショック」が起こり、株価が大反落する局面もあるでしょう。そういう場面では、支出を抑えて月額を取り崩し額を少し減らすことが合理的です。逆に株価が予想以上に上昇し資産価値が膨らんだときは、少し取り崩し額を増やして贅沢をするのも良いでしょう。そのこと自体、株価が下がったときには売却額を減らし、上がったときには売却額を増やすことになるので、資産寿命をさらに伸ばす効果があります。また、これは名目額の試算ですから、インフレが進行することを想定すれば将来の1000万円は現在の1000万円と同じ価値はありません。仮に年率2%のインフレが今後30年間継続する場合には、30年後の物価は現在の約1.8倍になります。したがって30年後の1000万円は現在の555万円（ $=1000/1.8$ ）の価値になることを想定して試算結果の金額を受け止めてください。



お客様相手に投資顧問をされている方は、「FIWA®インディくんで計算」とだけ注記していただければ、インディくんの結果を自由に対顧客説明資料に盛り込んでいただいても構いません。

さて2025年2月から執筆・掲載してきた「FIWA®インディくん活用法」のシリーズは今回で完了です。引き続きインディくんのご利用をお願いいたします。皆様方の実りある資産形成をお祈りいたします。

(完)

連載：FIWAインディくん活用法

- その1 あっと驚く長期・分散投資の高リターン
- その2 リスクとリスク分散の効果
- その3 各種インデックス間のリスク分散効果
- その4 各種インデックス間のリスク分散効果（応用編）
- その5 各種インデックス間のリスク分散効果（応用編）
- その6 各種インデックス間のリスク分散効果（応用編）
- その7（最終回） 資産の将来シミュレーション

このページを印刷する

カテゴリー

寄稿

タグ

【Vol.272】 2025年08月15日発行

2025年8月7日

寄稿

【Vol.272】エキスパート・オピニオン

フジテレビ騒動に学ぶ株主の役割

明治大学商学部教授 三和裕美子氏

I-Oウェルズ・アドバイザーズ（株）代表取締役社長

岡本 | 今年（2025年）前半に大きな話題になったのがフジテレビにまつわる問題でした。当初は人気タレントの起こした不祥事でしたが問題は当該テレビ局の対応、経営問題、外部株主の参入、株主総会と議決権行使、そして「株式とは何ぞや」という大きな問いかけにまで拡大しました。今までであいまいだった本来の株式、株主、株式会社などの問題が一挙に浮き彫りになった感があります。これは結果として良いことだったのではないかと思います。今回は企業統治や株主権がご専門で自らも社外役員として活躍しておられる明治大学商学部の三和裕美子教授にお話を伺いました。



三和裕美子氏

三和 | 株式、株主、株式会社などについて正確にご存じない方がまだまだ圧倒的に多いです。そういう人が投資をして株式を保有するということが小さいながらも企業に対して何らかの影響度を持つということを認識し、それにより会社を良くしていくことも少しは可能かもしれないし、それがひいては社会全体を良くしていくことにもつながる。もっと株式というものの社会性というものを意識した株式投資というものを考えてもよいのではないかと考えています。

フジ・メディア・ホールディングスの件で私も思ったのは、会社というのはいろいろなステークホルダーとの取引とか契約で成り立っているということです。ステークホルダー資本主義とか公益資本主義といいますが、それらが株主利益とは少し違うというイメージがあります。企業は何のために経営するのか、ステークホルダーのために経営するのだとされています。ただステークホルダーとは、本来、株主を含めるようなステークホルダーであるべきだと思います。だから岡本さんがいつもおっしゃるように株主にも責任があると思うのです。

社会の中で会社がより良い未来を創るように、監視というか、チェックというか、牽制をしていく責任が株主にはあると思います。労働者の権利は、労働契約の中で定められている。労働組合だけでなく、スポンサーとか、取引先か、消費者とか、あと視聴者でしょうね、みんな関わりを持っている。さらにフジのようなメディアHDにおいて、テレビ局は准公益企業といえるので、政府、総務省とか、国とか、もちろん株主など、それぞれがちゃんと会社をこの世の中のために存続させるように組成するという役割と責任を持っていると思うんです。

ステークホルダー資本主義というと、「分配を平等に」という問題と捉えられやすいですが、実は株主だけでなくその他のステークホルダーも役割と責任があると私も思っています。株主には株主の権利があって、議決権と配当請求権があります。株主のできることと、一般視聴者というか、生活者のできることはまた違います。それぞれのできることをして、株式会社を通じて豊かな未来のために役立つものにしていくという意識が大切だと思っています。

岡本 | 視聴者もおかしいことには「おかしい」と声を出すべきだし、それはさらに国の政治にも言える。選挙に行って投票するという国民としての重要な義務にもつながっていく。「どうせ行ったら何も変わらないよ」と思っているところが一番大きな問題なんですよ。株式投資もそうです。やっぱり株を持っているということは、株主としてリターンも得るけれども責任もあるということですね。

三和 | 例えば実際に放送関係企業のメディア研究をされている先生から聞いた話だと80年代はフジテレビなど放送関連業界には視聴率を取れば何をやっても許されるという雰囲気があったそうです。社員が番組終わった後、飲み会に行って帰るとき暴れて、お店のドアとか設備を壊すようなことがあっても、それが許されていた。それくらい暴れても「テレビ局の人間なんだ」ということでみんなが許してしまうだけでなく、むしろそれを助長するとうか、「よし」とするようなカルチャーが業界や企業にはあったと聞きます。フジテレビにおいては日枝さんを中心とした体制の中で、視聴率が取ればみんな何をしてもOKだと思っていたのでしょう。

では、株主としては、業績が上がればそれでいいということなのか。視聴率が上がり、スポンサーがついて、業績が上がれば、株価が上がれば、配当金をたっぷりもらえれば株主はOKなのかと言ったら、そうじゃない。社会的責任というか、企業としての倫理があり、「これって倫理的にどうですか」ということが問われなければいけない。株主はモノを言う権利があるのだから、責任もあるということです。

例えばある株主が社員の迷惑行為、違法行為について話を聞いたら声を挙げる。個人投資家でもいいんですよ。株主提案なんかなくてもいいので、株主総会に行って御社の従業員さんはどここのレストランで器物を破壊している。「そういう行動を『よし』とする企業カルチャーってどうなんですか」という質問はできるわけですよ

ね。そういったことを個人株主のレベルでももっとやっていけるし、やっていくべきです。ほんの少しでもそれで社会が良くなっていく。株主にはそういう役割と責任があるではないかと思います。会社法的な議論だけではなくて倫理に基づく議論をしていかないといけないと思っています。

岡本 | 倫理に乗っ取った株主の義務なんですね。私はかねてから配当金をもらったらその企業の社長に手紙をだそうということを勧めています。配当金のお礼でもいいし、企業の活動で気づいたことがあればひと言伝える。実際、手紙に感動した社長が「全社員の前で読んで聞かせました」という事例も報告がありました。また、苦情処理係に回されるケースもあったようですけれどね（笑）。

三和 | やっぱりおかしいと思ったら「おかしい」とたった一票でも言うべきだし、その声が大きくなるのはそれなりの影響力は持ってくる。



岡本 | 株式というものを株価でしか見ていない。ただ金で割り切って1000円で買った株がいくらになるか、配当金いくらもらえるかだけの世界だけじゃないってことですよね。生活者の視点で良いと思った点、正すべき点を株主として企業に伝える。もっと社会とのつながりをもって投資家も考えてほしいと思うのです。これこそ個別銘柄に投資するアクティブ運用の真骨頂だと思います。

三和 | コーポレートガバナンスの議論もそうで、株主価値を極大化するのか、ステークホルダーの価値の分配をどうするのか、取締役会の構成をどうするのか、そういう議論に終始をしているんですけども、そもそも会社の経営者というのは、その会社の文化とかカルチャーを醸成して作っていくという責任もあるわけです。トップの役割は業績だけではなくてその企業文化、カルチャーをまとめていくためのリーダーなのです。それを株主として「どういうカルチャーを創ろうとしているのですか」、「どういう文化を創っているのですか」ということを問うのは株主の責任だという議論も必要だと思います。

岡本 | それには「モノ言う株主」と「モノ聞く経営」が会社という車の両輪でなければならない。

三和 | 弁護士の中村直人さんという先生が最近「ガバナンスを語る」という本を出されています。前半は西洋近代主義の歴史がずっと書かれています。西洋の近代主義・個人主義の観点からのコーポレートガバナンスが日本に導入されていった過程が書かれています。

そういう西洋的な個人主義とか、近代化の中の「私」と「あなた」を切り離す二元論的思考方の中でのコーポレートガバナンスが日本に導入されてきました。その結果、日本はアメリカ型に向かおうとしているのですが、それが良いのか、悪いのかという流れをちゃんと理解していくことが必要だし、その中で日本のコーポレートガバナンスや日本的経営や株主行動が、制度的にアメリカやイギリスとは違う制度の中でどのように機能するかが問われていると思います。

岡本 | 思い出すのは米国のジョンソン・エンド・ジョンソンの「クレド（我が信条）」です。このなかで四つの主体が企業にとっての重要性の順番で示されています。まず、第一に顧客、第二に全社員、第三に全世界の地域社会、そして最後が株主であるとしているのです。

かつて同社の日本法人のトップを務めた故新将命さんが「どうして株主が最後なのですか」と本社のトップに聞いたそうです。その答えは「最初の三つを実現するのが企業としての責務だ。株主はその責務を果たすために企業を保有する存在なのだ」という答えだったということでした。

要するに株主こそ企業のオーナーとして顧客、社員、社会への貢献をする存在であるという返事だったそうです。企業の経営陣は社員の一員、リーダー役としてこの目的をぶれることなく達成する。新さんは「背骨が震えるほどの感動を覚えた」とおっしゃっていました。私も新さんのお話に同じような感動を覚えました。資産運用立国などが叫ばれる今日、このような株主、企業、世の中というつながりが常識になってほしいものです。今日はとても有益なお話をありがとうございました。

このページを印刷する

カテゴリ

寄稿

タグ

【Vol.272】2025年08月15日発行

2025年8月7日

お役立ち情報

【Vol.272】お役立ち情報

SNS、PODCAST等

ホームページ、メルマガ、ブログなど、お役立ち情報

[CFA協会ブログ] No.719より

関税とリターン：150年の市場の歴史からの教訓

(本文冒頭より)

貿易関税が復活し、市場の再編が進み、投資家には重要な課題が突き付けられました。

2025年初頭、米国はほぼすべての貿易相手国に対して包括的な関税を導入し、数十年にわたる貿易自由化の流れを反転させました。その結果、市場のボラティリティは再び高まり、地政学的緊張は高まり、そしてポートフォリオのレジリエンスの確保が喫緊の課題として浮上しています。最近報じられるニュースは新鮮に感じられるかもしれませんが、その背後にある力学は新しいものではありません。

過去150年、すなわち南北戦争後の好況期から、スムート=ホーリー関税法（注：1930年に米国で成立した保護主義的な関税法）による経済混乱期まで、米国は高関税の時代を複数回、経験してきました。世界経済は大きく変化してきましたが、投資家の行動やリスクの価格付けには、昔から見られる典型的なパターンに従って動いています。本稿では、それらの教訓をデータドリブンの視点から検証します。（フルテキストは以下で）

<https://www.cfasociety.org/japan/society-news-resources/blog/719>

びとファイナンシャルサービス
月刊ニュースレター

Vol.193
2025年5月7日発行

お客様の人生に豊かさ、
ここに安心とゆとりを。

私の長い間の友人、尾藤峰男さんが毎月発行している「月間ニュースレター」をインベストラ이프に掲載することを知ってもらいました。尾藤さんはCFA、CMA、CFPを全レベル、すべて一回で合格しているすごい人です。ウォーレン・バフェット、株主総会でパークシャー・ハサウェイのCEO退任を発表



FIWA正会員 小谷晴美さんの生活に密着した情報紹介

株価指数連動の積立投資シミュレーション・ソフト

FIWA
つみたてインディくん

長期 分散投資 であなたの資産形成をサポートする

無料版 & 有料版

提供：みんなのお金のアドバイザー協会FIWA
開発：(株)竹中R&I 代表取締役竹中正治

FIWAと竹中教授が開発・運営する積立て投資の様々なシミュレーションができます



証券アナリストジャーナルを読んで

証券アナリストジャーナルを読んで

毎月の「証券アナリストジャーナル」という業界誌を読んだ感想などを書いています。動画版もあります！



元トレーダー
X
現金融教育家
やすべえ

証券アナリストジャーナルの記事の要約を紹介してくださっています



グローバル最先端のアナリスト（CFA）が執筆している興味深い記事の日本語訳です



FIWA
株式会社
みんなのお金の
アドバイザー協会

長期投資仲間 集いの場
クラブ・インベストラيف
on Facebook

- ・個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿は禁止いたします
- ・投稿はあくまで個人としての発言としてください
- ・企業広告およびそれに類する投稿は一切認めません

FIWA仲間通信「インベストラيف」はこちら ⇒ <https://fiwa.or.jp/investlife/>
インベストラيفの沿革、理念、方針についてはこちら ⇒ <https://i-owa.com/letterzine/>

1973年創刊の長期投資仲間通信 現在、FIWAのWebベースの会報誌。一切、金融商品販売から独立した記事を掲載しています。

ファイナンシャルヒーラーの雑談トーク

<https://open.spotify.com/show/0PbvVeZmB0ycyZnPOR98ay>



22世紀の株価を視野に入れて投資をしよう
6月13日・ファイナンシャルヒーラーの雑談トーク
Spotifyで保存

マネーマネーマネー for you - FIWA～みんなのお金のアドバイザー協会～



マネーマネーマネー for you

FIWA（みんなのお金のアドバイザー協会 <https://fiwa.or.jp/>）に所属するコヤ（小屋）＆キャサリン（竹内）＆ナンシー（西岡）の3人の子育て中パパママがお届けする「お金」と「子育て」と「人生」に関するよもやま話をお届けするラジオ

<https://fiwa.or.jp/podcast/>

FIWAサロイン塾

第四回 7月20日13:00～14:30

1. 投資信託を学ぶ
2. 投資のコストにご用心
3. 求める投信の見つけ方

20250720 saroin④ Speech



このページを印刷する

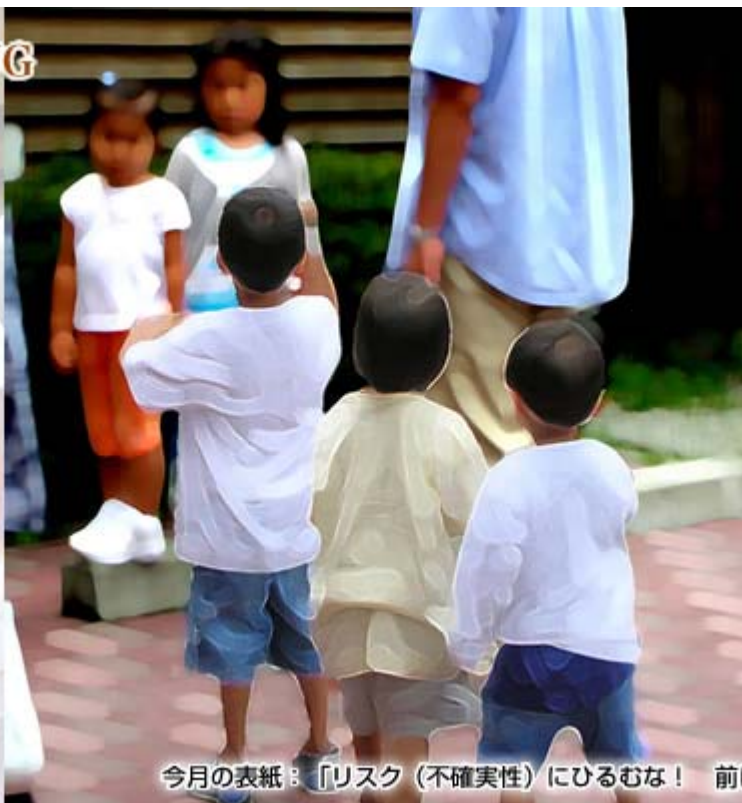
カテゴリー

お役立ち情報

タグ

【Vol.272】2025年08月15日発行

8 2012.AUG
 Vol.116



今月の表紙：「リスク（不確実性）にひるむな！ 前に出よう！」作・滝澤 健

今月のひとこと・・・

月初にサンフランシスコを訪問しました。夏休みのツーリストかもしれませんが、街中はとても活気に満ちています。名物のケーブルカーもパウエルの乗り場は延々長蛇の列。ここ数カ月のマンション販売はほとんど売り手値段で決まっているとの話もありました。もちろん一カ所で全体は判断できませんが、マスコミの報道とのズレを感じました。

！ 特集

生き延びる力～戦中・戦後の体験談を聞く

岡本和久



8月15日は終戦記念日です。戦中、戦後の極限状態を体験された人々には「生き延びる力」を感じます。一方で平和が長く続いたという日本では、何か大切なものが失われつつあるのかもしれませんが。その意味で、今、戦争体験を文章の形にして皆さまにお伝えすることは

意味があると思います、8、9月に渡りこの記事をお届けします。

！ その他にもこんな記事が

- ▶ 投資の話アラカルト 現在の日本株の不振はどこから来ているか 尾藤 峰男
- ▶ 達人たちの投資哲学を学ぼう
第8回 プロが一番運用を任せたいジョン・ネフ 岡本 和久
- ▶ 長期投資家のためのアナリストぶち講座
『インドへの投資機会(1)』 速水 禎
- ▶ 経済のギモンに答える 米国雇用の2つの顔 馬淵 治好
- ▶ セミナー等のお知らせ
- ▶ 中国がわかるシリーズ 中華思想とは何か 出口 治明
- ▶ 考察・長期投資の実践「外国人投資家の植民地」に指を食わえているのか 澤上 篤人
- ▶ 解析マーケット～シカゴの風
フィスカルクリフの本質 滝澤 伯文
- ▶ <報告> パネル・ディスカッション「投資で良い会社を応援しよう」岡本和久
- ▶ IOWAたより レポーター 川元 由喜子
- ▶ クラブ・インベストライフ@Facebookより

生き延びる力～戦中・戦後の体験談を聞く（前編）

岡本 和久

8月15日は終戦記念日です。1945年8月15日、玉音放送によって戦争が終わりました。戦中、戦後の体験をされた方々もだんだん減ってきています。しかし、極限状態を体験された人々の強いこと。多少のことでは動じない「生き延びる力」を感じます。平和が長く続き、安楽な生活に多くの人が慣れ親しんでいます。それはとてもありがたいことです。しかし、また、何か大切なものをわれわれは失いつつあるのかもしれません。その意味で、今、戦争体験を文章の形にして皆さまにお伝えすることは意味があるのではないかと思います、今月と来月にわたってこの企画をお届けする次第です。

2011年3月11日の震災はわれわれの魂を揺り動かす出来事です。多くの方々が筆舌につくせぬ苦しみと悲しみを抱えられました。しかし、若くして戦災を体験された人たちが強烈な生き延びる力を得られたのと同様、これから多くの「強い」若者がたくさん出てくることだろうと思います。そんな確信を持ちながらこの記事を書かせていただきました（なお、取材記事は私が取材録音したものをできるだけ忠実に文章にしたものです）。

壮絶な引揚げ、極貧の戦後を生き延びてつかんだもの

上田卓さん、上田早苗さん

上田卓さんは読売広告で取締役を務められた後、現在、ティー・エム・ジェイの専務取締役としてマーケティング・プロデューサーをされています。上田卓さんの妹の上田早苗さんはイギリス、スイス、アメリカ、香港、タイなどで日本語教師として海外勤務を経験、現在は日本語教育アドバイザーとして活躍、同時にフリースクール「上田学園」を主宰されています。

◆上田卓さん

私は1937年に、今は中国ですが満州で生まれました。父は満鉄（南満州鉄道）の技術畑の人間でした。母も同じく満鉄の研究畑の人でそこで二人が知りあって結婚、そして私が生まれました。葫蘆島（コロトウ）というところに住んでいました。その後、大連に長くいましたが、とても幸せな生活を送っていました。中国人の女中さんや畑を手入れしてくれる人などもありました。

父親は満鉄にいたということもあり、ある程度、戦局の実情も聞いていたようです。たまたま、1944年（終戦の1年前）大連港の埠頭に焼夷弾がひとつだけ落ちたのです。それがどうもアメリカ軍のもののようにだということで騒ぎになりました。父は、これはいよいよ米軍が満州にも来るだろうということでわれわれ家族を疎開させたのです。ハルピンの先に綏化（スイカ）というところがあります。そこから先はソ連領です。日本はソ連とは不可侵条約を結んでいましたから、北の方へ避難すれば大丈夫だろうと考えたのです。父は大連に残り、われわれ母親と私と弟3人とメイドさんなどを連れて移動をし、綏化の日本人町に落ち着きました。綏化での生活も幸せでした。ある意味、戦後、日本に駐留していた米国人のような生活だったのです。今から考えれば天国でしたね。そこで終戦となったのです。



終戦の当日、私は夏休みで家にいましたが、あの気丈な母がワーと泣きだしたのです。ラジオが鳴っているのですが、私は意味がわからない。なぜ、母親が泣いているのだらうと思い、私はオロオロするばかりでした。「お母さん、なぜ泣いているの？」と聞いてもわからない。夕方、まだ、明るいうちでしたが、母が私に「弟たちを集めて」というのです。母の部屋で車座に正座しました。そこで母は「実は、日本は負けたのよ。天皇陛下さまがそういうお話をされて、もう、日本はなくなるのよ。私たちもう生きてはいけない。それで、今日、ここでみんな一緒に天国へ行きましょう」というのです。母は何か青酸カリのようなものを持っていたようです。それを水に溶いて渡されました。「これを飲むと天国に行けるのよ」と母が言うのです。そして、本当に飲む寸前までいきました。でも、そのときどういうわけか私がそれを止めたのです。どうして止めたかかという、「お母さん、お父さん、帰ってくるんじゃないの？ 僕たちだけが天国に行ったら、お父さんかわいそうだよ。お父さんが帰るまで待とうよ」と言ったのです。それで母親も正気に戻ったのだと思います。とにかく、それではお父さんを待とうということになったのです。それで生き残ったのですが、それからが実は大変でした。

ソ連兵が拳銃を持ってどんどん入ってきて略奪、暴行を行います。ソ連兵の多くは罪を犯してシベリアに送られた人々です。兵隊といっても「弾よけ」ですよ。彼らがどんどん入ってくる。中国は軍隊を持っていなかったので一蹴されてしまった。あるとき、若い娘さんがうちに逃げ込んできた。そのあとをソ連兵がわめきながらどやどやと入ってきた。その娘さんを犯そうとしていたんですね。母はすぐにわれわれ子どもたちに「お便所に隠れなさい」と言いつけました。そのあと、外では大騒ぎがあってソ連兵が出ていった。母がわれわれを出してくれましたが、その娘さんはワンワン泣いている。そのようなことがあちこちでたくさんあり、その当時のことでもあり、自殺をした娘さんもたくさんいたと聞いていた、と聞いていました。



その後もなかなか父親が帰ってきません。理由は明確でした。当時、満鉄の課題は関東軍の日本兵をシベリアに送ることでした。そのための鉄道の操作は中国人だけではできなかったのです。そのために父親も手伝われていたんですね。綏化はシベリアに行く最後の給油地でした。電気でも動く電車ではない。蒸気機関車は水と石炭が必要です。ほとんどが貨物列車で屋根がありません。そのなかに日本兵が動物のように缶詰になっている。それをソ連兵が自動小銃を持って見張っている。逃げたらすぐに撃ち殺される。燃料を綏化で積んでいる間、ソ連兵は暇です。そこで人間を的にした射的をするんです。私も狙われました。母親には絶対に外に出てはいけなと言われていたけれど、こちらはまだ幼い子どもです。目を盗んで外に出る。友達と二人で外で話をしていた時に、たまたま、そこに中国人が通り、その中国人がひっくり返ったのです。見ると撃たれているのです。中国人がみんな集まってきて大騒ぎになりました。これは僕が初めて人が殺されるのを見た瞬間でした。それが私は8歳のときでした。

それから引き揚げになりました。兵隊はシベリアに連れて行かれたけれど、そのほかの人たちは日本に送り返すと決まっていたようです。父親も綏化によく来ることができました。逃げようとして殺された兵隊は数知れません。兵隊をシベリアに送り折り返してきた最後の貨物車に乗って、家族は大連に戻りました。大変な数の人たちが押し込まれていましたが、朝になるといなくなっている人もいました。おそらく汽車から落ちてしまったのでしょう。汽車が途中で止まってしまい、そのあと撫順(ブジュン)まで歩きました。そこに収容所のようなところがあり4カ月を過ごしました。そこで生活をしていたのですが、食べるものもありません。中国の人が食べ物をくれたのがありがたかったです。

撫順にいたときに弟が一人亡くなりました。栄養失調です。中国でも蒋介石と毛沢東の戦いが激化して、それに巻き込まれて撃たれて亡くなった方もたくさんいました。そして、その収容所の中で生まれたのが早苗です。母が穿いていたモンペのなかで生まれました。というのは、母親は妊娠していたのですが、お昼の食べ物を探すために動き回っているうちにモンペのなかで急に生まれました。周りの人が「あ、生まれる！ 奥さん、寝て、寝て」と叫んだと言います。

◆上田早苗さん

それが私です。

◆上田卓さん

この子は多分、生きながらえることはできないだろうとみんな思っていた。そんなとき、中国人が「子どもをくれないか」と聞いてきました。父親は「このままでは生きていけるかどうかわからない。子どもだけでも中国人にあげよう」と言ったのですが、母親は「どうせ死ぬならみんな一緒にのほうがいい」と言い、それは実現しませんでした。そこから葫蘆島に汽車で行くことができ、そこにアメリカ軍の貨物船が来ていたのです。その貨物船で数日かけて舞鶴に帰ってくることができました。船で食べたアメリカ軍のスープとパンがいかにおいしかったことか。生まれてからこんなにおいしいものは食べたことがないと思ったほどでした。ほとんどまともなものはずっと食べていませんでしたからね。

舞鶴から東京に引き上げ、麻布中学のすぐそばの倉庫が引揚者寮となっていたのでそこに落ち着きました。ローンテニスクラブが近くにあり、アメリカ人がテニスをしていました。テニスボールが場外に飛んで来るとそれを拾って食費を稼いだりしました。父は満鉄もなくなってしまって、仕事もない。それでガードマンのようなことをしていました。私のすぐ下の弟も栄養失調で亡くなりました。男の兄弟が四人いたうちの二人、一人が中国で、一人が日本で栄養失調で死んだのです。今でもよく覚えています。母親が「さんざん苦労して、せっかく日本にまで帰ってきて、もう大丈夫と思ったとたんに死んでしまった」と泣いていました。私はがむしゃらになんでも食べるタイプでしたが、弟は好き嫌いがあり、母が「好き嫌いはいだめよ。好き嫌いがあると、結局栄養を摂れなくなってダメになってしまう」とその後もずっと言っていました。棺もなかったのです。ミカン箱を改造してそれお棺にして荼毘にふしました。

◆上田早苗さん

麻布の引揚者寮で、朝起きたら天井に空が見えるのです。台風が来て屋根がすべて飛ばされてしまったこともありました。

◆上田卓さん

父がガードマンで、母はアルバイトをしていました。父は夜勤も多く、結局、私が長男だったので家事は私が見よう見まねでやっていました。弟たちと一緒にやっているうちに、だんだん知恵がついてできるようになってきました。当時、水泳の古橋広之進ががんばっていました。私も水泳をやっていたんです。かなり上手でみんなにほめられる。それが何か生きる力になっていました。そういう意味では何か前に向かって進んでいました。やはり、引き揚げまでの極限状態があったので、それと比べればずっといい。あの苦しみがバネになっていますね。今、若い人にも「ありがたい世の中でそう簡単に殺されるわけではない。どんな大変なことがあったって、そこがどん底でそこからよくなると思えばいいじゃないか」と話しています。人間の世界って面白いものです。みんな、一生懸命に必死で生きていました。

引揚者寮には小学校6年までいました。いろいろな所で引揚者寮ができていたので6年のときにそこを出て、三鷹の寮に移りました。それで少しずつ生活も安定してきた。

◆上田早苗さん

私は有栖川公園近くの幼稚園に行っていました。大使館が多いので外国人の子どもが多いんですね。外国人の子どもが泣いているのを見て、家に帰って「お母さん、キューピーちゃんが泣いてたよ」って報告をしたりしたものです。「何かね、四角いものがあってね、それを食べているんだよ」と報告する。いま思えばサンドイッチです。日曜日にはパンを買ってもらえました。兄たちは私のために一つだけコッペパンを買ってくれました。それを有栖川公園に座って食べました。それが本当においしかったです。学校の給食もとてもおいしかったです。今から考えればとても食べられない味でしたけど。周りがみんな貧しかったので。



よく覚えているのは、みんなでケーキを「見に行きました。食べるのではない、見に行くのです。ケーキ屋さんが近所にできました。そこにクリスマスのケーキが飾られていて、ケーキの家の横にお菓子のトナカイがありました。母がそれを見に連れて行ってくれました。「これはね、ケーキと言って食べられるのよ」って教えてくれました。「本当にこれが食べられるの？」と聞く私に「そうなのよ。クリスマスっていうキリスト教のお祭りがあって、そのときにこれを食べるのよ」と教えてくれ、それを見に行くのが楽しみでした。何度も行ったものです。

母は「貧しくてもいろいろなことを知るべきだ」と考えていました。それで、本当にボロボロのかっこうだったのですが、国会議事堂などいろいろな所に連れて行ってくれました。武蔵野市に引っ越すことを決めたのも教育を考えたからだと思います。もうひとつの引っ越し先の候補は品川でした。そのほうが仕事は多かったそうです。でも、三鷹駅前には母の大好きな国木田独歩本、『武蔵野』の碑もあるし、教育には三鷹のほうが良いということでこちらにしたそうです。

◆上田卓さん

賃貸の引揚者寮でした。長屋のようなアパートでした。みんなが助け合っていました。当時の私の楽しみは映画でした。欧米の映画を、アルバイトをして得たおカネで観に行く。映画のなかは世界が違うんですね。ですから、映画を観ている間は、楽しい、おいしい世界がある。そこに2時間ぐらいいる。出てくると「ああ、よかった。次の映画を観るまでがんばろう」と思ったものです。世界の差を感じましたね。アメリカ人家庭の使用人をしている家の子どもが友人でした。その家に行くとアメリカ人からおいしいものをもらえる。それを食べさせてもらえることも楽しみの一つでした。時代の知恵というのでしょうか、極貧のなかでもお互いに助け合い楽しみを見つけていました。



現代の日本を見て一番気になるのは「心」ということです。マスコミなどで餓死などのニュースが取り上げられています。でも、本当のことをいったら、少し考えれば生きられないことはない。仕事だって選ぶからない。俺は捨てられたとか、俺はダメになったとか言っているけれど、それは多くの場合、心の問題です。少し、心のあり方を変えれば道が開けてくる。苦難は人を成長させます。どん底で「よーし！」という心が必要なのです。戦争がいいわけではないが苦難は必要です。苦難が人を強くする。苦難のない時代が長く続いたので、みんな弱くなってしまった。「なんでそんなことで、自分がダメだといって自殺しちゃうの」と思うことがとても多いです。大学卒業して3カ月ぐらいで、せっかく就職した会社を気軽に辞めてしまうんですね。考えられないですよ。昔だったらビンタをしても残らせます。今、そんなことしたらすぐ新聞ダネになってしまう。鍛える側も厳しいことができない。鍛えられる側はすぐにいなくなってしまう。ですから、私から見ると今の社会って幸せそうに見えて意外に不幸だなと思います。

◆上田早苗さん

今、「みんなぼっち」という言葉があるそうです。みんなというけれど一人。政府がいろいろと援助するけれども、人間の尊厳が大切にされていない。何か大切なものが骨抜きになっている。福祉という名のもとに一番大切なものが失われている。それが孤独感になっている。

◆上田卓さん

最近は何かが足りなければすぐそれを与える。でも、「足りなければ作れ。それを応援するよ」というのが本当の姿です。政府もおカネさえ出せばいいと思っている。何かが欲しいと小さい子は「ママー」と泣き叫ぶ。泣くのを止めさせるために欲しがるものを与える。そういう子どもたちが今、大人になっています。怖い話です。モノがありすぎるのも人間社会にとって問題ですね。若者に言いたいことは、人間も、すべての動物もエゴの存在だということです。みんな、自分がよくなりたいと思っている。ただ、自分が幸せになるためには人とのつながりが大切です。人を大切にしなければ自分は幸せになれない。一時的でもいいから自分を少し引いて相手をたてる。そうすればその人は決してそれを忘れない。自分が困ったときに助けてくれる。弱肉強食の動物の世界でも、結局群れを作って助け合っている。「最大のエゴのためには人を助けよ」ということを一番言いたいですね。自分の取り分を減らしても人に譲る。それが自分のためになる。気がついたら自分が一番幸せになっているのです。

若いときの苦労は買ってでもしろ！

田中義博さん

新日本証券副社長、太陽投信（現新光投信）社長を経て現在、太陽インベストメント・アンド・コンサルティング代表取締役。ニューヨーク、ロンドンなどに駐在経験を持つ。

僕は昭和7年、1932年の生まれです。今年10月に80歳になります。父は、当時のブリジストンのいわゆるノンキャリアの職工長でした。夜間の工業専門学校しか出ていない技術者でした。同社は地下足袋から始まった会社でしたが、すでに自転車、自動車、戦闘機・爆撃機のタイヤ、靴（軍靴）などを作る会社で、いわば軍需産業だったのです。ある程度、戦争が始まることはわかっていただいでしょうね。同社は青島とジャカルタ、そして台北に製造拠点をやることを決めたのです。父は台北の工場を作れという命を受けて技師四人で赴任しました。それが昭和12年です。私を含め家族は昭和14年に父と合流、小学校1年生でした。当時、台湾には日本人が60万人いました。完全な日本の植民地です。台湾府の総督は陸軍大将か、海軍大将。父は技術の親玉で、下に台湾人が5～600名いました。子どもを戦争に行かせたくないで富裕層の台湾人は息子を軍需工場に入れたいわけです。軍需工場で働いていれば軍隊に行かないでよかったのです。それで台湾人の金持ちがいろいろなツテを頼って息子を入れようとしていたのです。



私は台北一中という日本人学校に入学しました。約50人のクラスで、そのうち4～5人が台湾の富裕層の息子でした。中学は台北一中が原則、日本人だけ、二中が台湾人だけ、そして三中は日本人と台湾人と分けられていた。私の入った一中にはごく少数の台湾人がいたのですが、彼らはものすごく優秀でした。成績トップはいつも彼らでした。彼らは日本が追い出された後、みな立身出世をしています。

中学には入ってもほとんど勤労動員で勉強はしませんでした。1、2年生は勤労、3年生は軍隊に組み込まれていました。すでに、米軍は沖縄に上陸をしていました。次は台湾だという危機感が高まっていました。まあ、「たぶん敗けるのだらう」と思いつつ軍需工場などで働いていました。空襲も日常的で随分多くの人死んでいました。顔のない死体がゴロゴロしていました。わが家も沖縄から逃げてきた人のための避難所になっていました。総督府に1トン爆弾が落ちました。地下まで貫通して地中で爆発するのです。すべてが飛ばされてしまう。学校も半分は崩壊しました。

終戦を迎えたのは中学1年のとき、そのときは農業試験場に動員されていました。暑い日でした。天皇陛下の玉音放送があるとは聞かされていましたが、ザー、ザーという雑音ばかりで何も聞こえない。終わったら先生が「敗けた」と言ったのです。両親も軍需産業に勤めていて戦況がわかっていたので、それほどのショックはなかったように思えました。戦争が終わって1週間ぐらいで授業が再開しました。先生たちは立派でした。英語の授業も始まり、数学も物理も化学も日本語の国語も、そして中国語も開始されました。後年、仕事で中国に行ったとき「あなたの中国語の発音はいいね」とほめられたものです。そのころから台湾人同級生の報復が始まりました。クラスのガキ大将だった男は学校の帰りに待ち伏せされ、ひどい目にあわされました。幸い、僕はガキ大将の子分でしたから直接的に暴力を受けたことはありませんでした。台湾人学生連盟というのができて暴力で報復する。戦中はガキ大将が台湾人を殴っていた。それでも彼らはだまって我慢していた。まさに報復でした。授業が始まる前に学生連盟がダミーと教室に入ってきて黒板に大きく「犬」と書く。中国で犬というのは最大級の侮辱的な言葉です。「貴様たちは犬だ。このなかで台湾人の同級生をいじめた奴は立て」と言われる。しかし、誰も立たない。立ったらやられる。そうすると「やっぱり犬だな」とあざ笑いながらガキ大将を殴る。

高校に進学するときに、叔父は私を線路工夫にしようと考えたようです。父は「自分は学校に行っていないからこの子は行かせる」ということで進学しました。大学に入試するときも九大に入れなかったら就職しろと言われていました。結局、九大に入学して、大学を昭和30年に卒業しました。学資は全部自分で調達しました。奨学金ももらい、アルバイトをして、衣類まですべて自分で稼いだカネで賄いました。父は会社を辞め、雑貨と野菜を売る店を始めました。少しずつ土地も値上りを始めました。さらに雑貨屋を処分して今度は西鉄の駅の前に土地を買い、書店を始めました。すぐそばに高校ができるという情報を得ていたのです。書店をやりつつ学校や役所に出入りしているうちに市会議員になりました。次に書店も売却し、自宅のそばにビルを建てました。その意味では5人兄弟で本当に苦労したのは上二人、下はそれほど苦労はしませんでした。まあ、もちろん、今の若者ととは比べものにならないでしょうけれどね。父は市会議員を16年勤め、勲六等の勲章まで最後はもらいました。



必死の思いと覚悟でもって大日本帝国のために国民皆が力を合わせて頑張ってきたが、祖国は米国に破れました。当時、台湾にいた日本人は1945年8月15日をもって祖国を失ったのです。青天白日旗を振りながら天秤棒と銃と身の回り品を担いで行進していく支那兵を出迎えさせられたあの屈辱は忘れられません。強い祖国があつての国民の生命・財産の安全です。父は身の危険にもあいました。そして、すべての財産を失いました。

私は1972年に初めて米国ニューヨークに赴任しました。超大国アメリカの巨大な力に圧倒されましたが、逆に「俺は日本人」である、いくらアメリカに敗れたとはいえ、日本人としての魂まで失ってはならない。必ずや日本を復活させ、欧米列強に伍してその存在をあらしめる国にしたい。そのために力の及ぶ限り、自分の専門分野(投資銀行業務)で欧米の大金融機関に恥ずかしくない仕事をしたいと念じながら今日まで頑張ってきました。

若い人たちへのメッセージですか? 「若いとき、苦労は買ってでもしろ」ということです。そして、「その苦労に向かっていけ。苦労をすると新しい自分が見出せる」ということでしょうね。「若い人たちよ、今からでも遅くない。世界に飛び出して行って日本人の存在を示してもらいたい。そのためにはわが国の歴史・文化を改めて学び直し、かつ、相手国の民族・歴史・文化をしっかりと勉強してほしい」それを一番、言いたいですね。

空襲敢闘記

岡本 茂和

私(岡本和久)の父(岡本茂和、1917年生れ、2000年没)は「空襲敢闘記」という随筆を残しています。1945年5月24日の深夜にかけて一家の住んでいた東京都目黒区大岡山付近が空襲にあい、辺り一面が焼け野原となりました。そのなかで父をはじめ親戚や近所の人たちが必死に自分の生活を守っている様子が書かれています。国と国との戦争に翻弄される民衆、そのなかで必死に自分たちを守る人々、今から60数年前にあった事実を風化させないためにも皆さんに読んでいただきたいと思います、ここに掲載させていただきます。

昭和二十年五月二十四日午前零時半頃であつたか、確かな記憶はないが突如警戒警報を知らせるサイレンが鳴り響いた。早速、ラヂオのスイッチを入れると敵数機が帝都に近接しつつある旨放送している。考えて見れば前回以来一ヶ月余、昼間一度立川へ多数機で来襲したのみにて静寂に戻っていた帝都であつた。其間約一ヶ月、吾家に於いても大きく時を稼いでいた。その前夜、疎開先の祖母様から御手紙があり次の便で送らねばならぬ品物を話し合ったりしながら、今月から御米差し引きとなった丸パンを食べた。しかも丸パン一日分二個を一度に「うまい、うまい」と頬張り、残っている御飯でお茶づけを食べ、寝しなには更にその日小生が会社で配給された海宝麺を「ひじきと変わらぬ」等云いながらお皿一杯試食して、それこそ超満腹感を吃しながら九時前後床に就いたのであつた。

サイレンで起こされた時も又、敵大軍来襲の報道を聞いた時も、実に吾ながら平常と変わらず、寧ろより以上に落付いていることができたのは実は前夜の栄養食が腹に一杯ありそこから力がもりもりと泉の如く湧き出ていたからであった。当時、ラヂオは不絶情報を伝えていたが記憶にない。只刻々と迫る敵夜間大空襲の前ぶれを放送していた様だ。始めて隣組防火郡副部長の腕章をつけた。何だか急に力がついて来た様な気がした。みどり(妻)もすばやく自身の用意を整え持出す荷物を玄関に揃えていた。みどりと二人で順序よく完成したばかりの中壕にハシゴをつたって先ずトランク立てに信玄袋、それに其前日持ち帰った海宝麵の一包、座布団、蒲団包等を押し込めて蓋をした。門の傍の壕にも木箱等入れて先ずはこれで一安心と云う処だ。

照空燈に照らされて敵機が一機、又一機、三四千の高度であちらこちらを飛び廻る。見る見るうちに南方の空がまず赤くなる。次いで北方の相当はなれた処にバラバラと焼夷弾が落ちて行くのが花火のように見える。と突然頭上を通った一機から落としたのであろう身をつんざく様な落下音と共に成功館付近より火の手が上がった。愈々身近に落ち出したかと思うと思わず身のしめる感がする。空からは焼夷弾の油片が赤く燃えながらあちらこちらに落ちる。前の畑にも一つ。早速とび口でたたき消す。桜の木にもひっかって燃えている。皆盛んにガヤガヤ叫び声を立てて消火に懸命だ。これなら「延焼の心配なし」と思ってすぐ家の前に戻り上空を警戒する。盛んに火のついた油片が落ちて危険極まりない。特に家の垣根によくひっかかる。小さい油片なのでたけばすぐ消える。があちらこちらなので漸く忙しさを増して来た。

折から家の真西より飛来してきた敵一機、頭上より約五十度位手前にてバラバラバラバラと火の粉が落下した。「これはいかん」と思うとたんにザーザーと云う物すごい落下音、思わず門前の街燈に身をよせた瞬間、パリパリ、ツドン、パリパリ、ツドンと云う屋根を貫く音。火の手は我家よりわずかに南へ三軒目の家の前当りから上がった。皆、消火を始めたのでこの分なら延焼は大丈夫と又しても危中に一安心を見つけた。がしかしそれから一、二分も経ったであろうか、又も同じ西方上空に一機来襲、同一個所で焼夷弾を落下した。今度は駄目かと思う一瞬、火の手は家の前の谷を横切って落下。一本の帯となって火を吹き上げた。始め風向は北風で成功館の方より火の粉の飛来するのが心配だったが後には西風に変わり谷向うから吹きつける。前の谷の溝より南は火の海だ。隣が焼ければ家が危ない。取るものも取り敢えず駆けつけて水をかける。隣には若い女の人がおおり小生二人にて水をかける。たちどころに用水槽の水が無くなる。家のものも無くなる。然し一軒先の家の火はいよいよ燃え盛る。風呂場の水に気がつき一生懸命に隣のはめ板に水をかける。体は水でぬれてぐしゃぐしゃ靴も目茶苦茶、ブカブカしてすぐぬげる。風呂場の水もたちまち使いつくした頃、火は残念ながら隣の二階に移り始めた。二階には水がとどかない。その上その水さえ遂に補給がつかぬ。「もう之までだ」、自分の家を守ろうと思って家に引き返した。

家の台所近くに来るや否や又々新しい焼夷弾が次、次へと落ちている。此時、一発は異様な音を立てて遂に吾家の台所天井を貫いたらしい。外より見ると台所中、硝子越しに真赤になっている。「畜生！ 遂に落ちたか」、今迄、今の今迄は大丈夫と置いていたが。体は隣家の消火で既に疲れ切っている。台所の木戸口に走り寄ったら運悪く中から閉って開かない。力にまかせて木戸をたたき破り中に入る。既に台所中、一面、火の海だ。中に入ったが水が無い。水道は勿論出ない。大声で叫んだが誰も居ない。どうにも手のつけ様がない。困った揚句、家の中に駆けて行った時、ふと足許の掛蒲団に気が付いた。「これだ、これだ」とすぐ大きな掛蒲団を一枚ひきずる様にかついで来て台所の戸棚の前の火点にかぶせて足でふみつけた。蒲団の四方から火がふき出る。丁度此時、近所で人が小生の声にかけつけ、一、二杯水を呉れた。蒲団の上からかけたが大した効果もない。そこへさらに近所の人が水をもって駆けつけてくれた。すぐかける。然し次の水までの間が長くて火は仲々劣えぬ。このとき天佑か神助か、蒲団で火力を押さえているそのすぐ下に土釜が二つあり、しかもその土釜に夫々水が一杯入っているではないか。「これだ、これだ」、すぐお釜二杯の水で蒲団をぬらし次の水を待つと不思議と急に火力は劣え始めた。「しめた、しめた」、もう大丈夫だ。そう思っている中、ご近所の人たちから夫々数杯の水補給あり遂に消し止めた。

「消したぞ」、大声で叫んで台所から出るや否や、今度は隣家の二階が炎々と燃えている。今度は「家に水をかけろ」と叫びながら一心不乱に水をかける。裏口よりみどり、隣に住む叔父一家、皆代り替りに庭より水を持って来て小生に呉れる。羽目板にどんどん注ぐが、すぐ湯気になって消えてしまう。吾家もついに燃えるかと思ひ荷物を運びだすことを考えたが、すでに壕にいろいろな物をみどりが入れてあったので安心。焼けても大丈夫と思いつつも、此の後、いよいよ最後に持出すべきものを頭の中で数え上げた。御位牌、ラヂオ、自転車……。しかし、家は燃えぬという信念の下に消火しているのだ、これらのものは最後まで持出さぬと決心、消火に専心する。もしここで持出せば皆の気持ちが乱れる事を恐れたからだ。こうしてどんどんどんどん水をかける。家の井戸、隣の井戸と両方から補給して呉れる。

周りでは「あと五分だ、頑張れ頑張れ」と連呼している。小生もそれに呼応して水をかける。既に炎はこちらになめかかって来る。顔が暑い。焼けつく様だ。思わずバケツの水を頭からかぶる。数分経つと又耐えられなくなる。又水をかぶる。全部で明け方まで何杯かぶった事だろう。バケツリレーの水もなかなか間に合わぬ。そこで杓子でドブ水をかける。全く夢中で水をかけていたら遂に最悪の場面に直面した。即ち炎上している隣の二階が家の上に押しつぶさって倒れかかって来たのである。愈々絶体絶命、思わず持っていた柄杓で支えた処が先の金の桶が取れてしまった。思わず素手にて支えはねかえした。そばで叔父様が「手では危ない、何かないか」とおっしゃって居られたがそんな暇はない。今考えてやけどをしなかったのが不思議な位だ。疲れた体に一心にお念仏を称えながら、神仏の加護を祈りつつ消火に縦横無尽、頑張ったのである。倒れ掛かったやけた柱も漸く火が衰え始めた。やや暫く、もう延焼の危険は去ったと思われたが未だ余燼が上がり炎は燃えている。今、心をゆるめ風向が変われば大変と疲れた体を自らはげましながら何回となくバケツの水を注ぎ込む。何時の間にか空はうす明るくなりかけて来た。時計を見たら四時過。一同、思わず顔を合わせお互いの敢闘を祝しながら先ず無事を喜び合った。小生もうれしかった。ご近所の人たちも来られ「四囲は全部焼けたが一軒丈残った、満願だ」と云って叫んでいる。皆敢闘したものの喜びの雄叫びだ。

この頃からどうしたものか寒さを感じる。一通りの寒さではない。悪寒だ。ガタガタふるえる。洋服も多少ぬれてはいるもののそんなに冷えている訳ではないのだが、皆に聞いて見ると皆が皆ふるえている。余り火の側で駆け回っていた反動であろう。焼け跡の火に遠くからあたりながら暖をとる。いつの間にか近所の火もすっかり下火になっている。見ると一面の焼け野原になっているので驚いた。まだ余煙と灰煙でよく見えぬがとにかく相当な被害らしい。一方、家の中は台所の焼夷弾消火の時、土足にて往来し、又、水をかけたので泥と水でぐちゃぐちゃ、畳の上にあがる訳にも行かぬ。然し焼け残ったのだ、この位はしかたないとあきらめる。腹が減ったので平常用意していた炒り米を食べる。みどりは御飯を炊く。焼け出された人の手前もあり余り仰々しくできぬのでこっそりとおにぎりを作る。小生もみどりと腹一杯、食べる。相当食い込んだ事と思いつつも、今、この時元気を出さねばと思いい遠慮無く頂戴した。お酒でもあれば大いに祝杯を上げる所だがそれどころではない。次の空襲にそなえて対策をねりつつ喜び合うのであった。

(次号に続く)

<モデルポートフォリオ:2025年7月末の運用状況>

単位：％

		トータルリターン・％				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率・％			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ～307万円
4資産型	積極型	3.72	10.07	16.31	9.25	13.64	8.46	45.97	91.66	253.95
	成長型	2.65	6.48	10.48	6.28	9.16	5.49	28.20	54.43	152.58
	安定型	1.57	2.93	4.81	3.22	5.26	2.56	12.79	24.40	77.22
2資産型	積極型	4.97	13.84	17.89	10.76	15.25	10.07	53.09	111.73	325.77
	成長型	3.98	9.98	12.41	7.66	10.85	7.52	36.23	71.63	202.81
	安定型	2.99	6.15	7.04	4.47	7.18	4.97	21.31	38.98	111.24

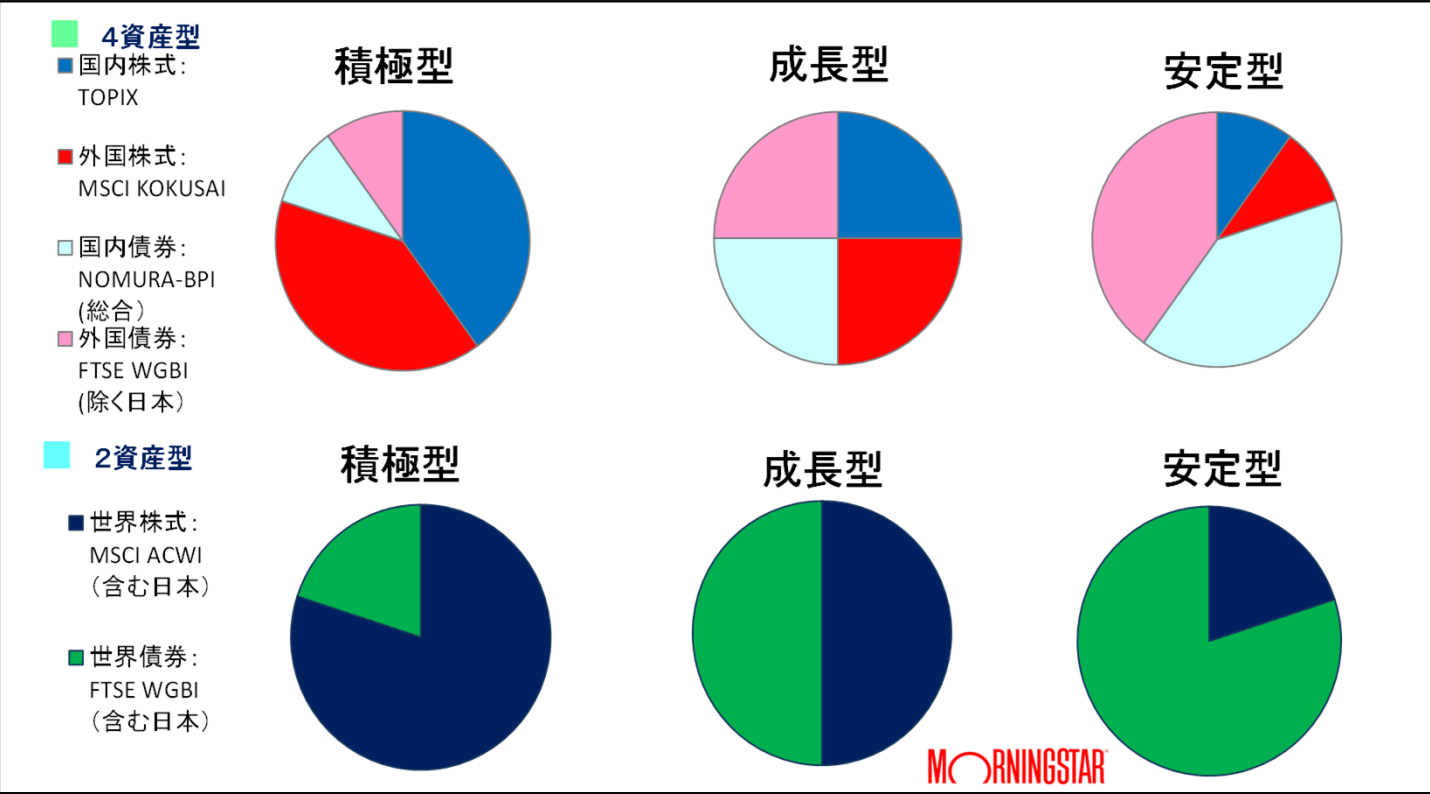
* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2024年7月末に1万円投資資金を積み立て始め、
←累積月数をコピーする年6月末の投資資金までとする(2025年7月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。
出所: モーニングスター・ジャパンがMorningstar Directにより作成。Morningstar Directについてのお問い合わせは、お問い合わせメール
(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>) まで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA-BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

ポートフォリオは「インベストラ이프」が参考のために考案した資産配分に基づき、
モーニングスター・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラ이프』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>



＜国内で購入可能な代表的ETF:2025年7月末の運用状況＞

当資料は「インベストラ이프」のために、モーニングスター・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。ファンド名をクリックするとそのファンドの詳細を見ることができます。

「長期投資仲間」通信「インベストラ이프」はこちらからご覧ください。FIWA通信 インベストラ이프® | 「みんなのお金のアドバイザー協会〜FIWA」

* 投信ブログ 「梅屋敷商店街のランダムウォーカー(インデックス投資実践記)」の管理人、水瀬ケンイチさんのご協力で銘柄を選定しました。
なお、国内株式、債券、コモディティについては インベストラ이프 が選定しました。

Ticker	ファンド名	トータルリターン (米ドル換算)					トータルリターン (円換算)					リスク (円換算)	リスク (米ドル換算)	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				純資産 2025年7月末		総資産率 または 信託報酬 (%)	Morningstar カテゴリー	連動を目指す 投資対象指数
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	1ヵ月	1年	5年 (年率)	7年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	1年 12万円	5年 60万円	7年 84万円	10年 120万円	百万ドル	億円			
1308	上場インデックスファンドTOPIX (日興AM)	-0.98	7.88	9.17	5.64	6.19	3.17	7.90	17.15	10.20	8.27	15.76	14.75	9.08	47.64	65.86	85.94	13.09	88.58	139.32	223.13	77,130	116,077	0.075	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1348	MAXIS トピックス上場投信 (三菱UFJ)	-0.98	7.86	9.17	5.64	6.19	3.17	7.89	17.15	10.20	8.27	15.76	14.75	9.07	47.62	65.84	85.91	13.09	88.57	139.31	223.10	23,377	35,182	0.066	国内株式・ 大型ブレンド型	TOPIX(配当込み)
1554	上場インデックスファンド世界株式 (MSCI ACWI)除く日本(日興AM)	1.26	15.99	13.10	10.81	10.02	5.51	16.01	21.38	15.59	12.18	18.65	16.72	11.20	63.21	96.21	136.06	13.34	97.93	164.82	283.28	91	138	0.264	外国株式・ 世界型(除く日本)	MSCI ACWI ex Japan指数(円換算)
VT	Vanguard・トータル・ワールド・ストックETF	1.02	15.17	12.77	10.37	10.08	5.25	15.19	21.02	15.14	12.25	18.59	16.75	11.16	62.04	94.54	134.91	13.34	97.23	163.41	281.89	50,065	75,346	0.06	外国株式・世界型	FTSE グローバル・ オールキャップ指数
I00	iShares® グローバル 100 ETF	3.46	17.19	16.87	14.77	13.47	7.80	17.21	25.42	19.73	15.70	19.97	16.90	14.04	83.70	130.90	194.25	13.69	110.22	193.96	353.10	6,827	10,274	0.4	外国株式・世界型	S&P グローバル 100 指数
TOK	iShares® MSCI コクサイ ETF	1.20	16.27	14.39	12.00	11.24	5.44	16.29	22.76	16.84	13.42	19.53	17.34	11.27	69.39	106.86	154.70	13.35	101.63	173.76	305.64	224	337	0.25	外国株式・世界型	MSCI KOKUSAI(コクサイ)指数
EFA	iShares® MSCI EAFE ETF	-2.52	11.92	10.22	6.51	6.05	1.56	11.95	18.28	11.11	8.13	17.43	16.73	9.87	51.10	72.39	93.78	13.18	90.66	144.81	232.53	62,879	94,630	0.32	外国株式・ 大型ブレンド型	MSCI EAFE 指数
VSS	Vanguard・FTSE・オールワールド (除く米国)スモールキャップETF	-0.39	14.26	8.57	4.96	5.99	3.79	14.29	16.51	9.49	8.07	18.16	17.90	13.71	44.19	64.17	82.05	13.65	86.51	137.91	218.46	9,277	13,961	0.08	外国株式・ 中・小型ブレンド型	FTSEグローバル・ スモールキャップ(除く米国)指数
VTI	Vanguard・トータル・ストック・マーケットETF	2.28	15.60	15.11	13.31	12.98	6.56	15.63	23.54	18.20	15.19	20.88	18.21	10.84	70.93	113.10	172.51	13.30	102.56	179.01	327.01	513,755	773,175	0.03	米国株式・ 大型ブレンド型	CRSP USTータル・マーケット指数
VB	Vanguard・スモールキャップETF	1.85	5.06	11.27	7.78	8.81	6.12	5.09	19.41	12.44	10.94	23.87	21.82	4.76	43.79	71.76	107.26	12.57	86.28	144.28	248.71	63,410	95,428	0.05	米国株式・ 小型ブレンド型	CRSP USスモールキャップ指数
EEM	iShares® MSCI エマージング・ マーケット ETF	1.32	16.43	4.60	3.71	5.09	5.57	16.45	12.25	8.19	7.16	17.94	18.03	13.85	37.47	51.80	68.49	13.66	82.48	127.51	202.19	18,541	27,903	0.72	外国株式・ 新興国型(複数国)	MSCI エマージング・マーケット指数
VWO	Vanguard・FTSE・ エマージング・マーケットETF	1.12	15.83	6.03	5.05	5.67	5.35	15.86	13.78	9.59	7.74	17.43	17.22	11.92	40.72	58.42	77.87	13.43	84.43	133.07	213.44	93,145	140,179	0.07	外国株式・ 新興国型(複数国)	FTSEエマージング指数
I0OV	iShares® 世界国債(除く米国)ETF	-3.52	4.66	-4.70	-2.11	-0.57	0.52	4.68	2.27	2.12	1.38	6.16	9.14	4.25	9.95	11.89	14.08	12.51	65.97	93.99	136.89	1,214	1,827	0.35	外国債券・世界型	S&Pティーズグループ・ インタナショナル・ トレジャリー・ボンド指数(除く米国)
AGG	iShares®・コア 米国総合債券市場 ETF	-0.25	3.40	-1.07	1.71	1.63	3.93	3.42	6.16	6.10	3.62	7.49	5.11	3.04	18.76	26.06	34.08	12.37	71.25	105.89	160.90	127,942	192,546	0.03	米国債券・ 中長期型	バークレイズ米国総合指数
TIP	iShares®・米国物価連動国債 ETF	0.08	3.91	0.95	2.89	2.50	4.27	3.94	8.34	7.34	4.51	8.33	5.10	3.46	20.75	31.98	42.64	12.42	72.45	110.86	171.16	13,646	20,536	0.18	米国債券・ インフレヘッジ型	バークレイズ 米国TIPS指数(シリーズL)
RWX	SPDR ダウ ジョーンズ インタナショナル リアル エステート ETF	-1.79	8.85	2.04	-0.74	0.26	2.33	8.87	9.50	3.55	2.22	16.34	17.65	8.61	19.55	23.66	27.82	13.03	71.73	103.87	153.39	313	471	0.59	海外不動産(除く米国) セクター型	ダウ・ジョーンズ・グローバル (除く米国) セレクト・リアル・ エステート・セキュリティーズ指数
IYR	iShares®・米国不動産 ETF	0.13	3.05	5.62	5.09	5.66	4.32	3.08	13.35	9.63	7.74	19.28	18.83	0.52	28.58	43.81	64.23	12.06	77.15	120.80	197.07	3,710	5,583	0.39	米国不動産 セクター型	ダウ・ジョーンズ米国不動産指数
GSG	iShares® S&P GSCI コモディティ・ インデックス・トラスト	3.53	6.74	16.35	4.06	2.33	7.87	6.76	24.86	8.56	4.34	26.05	21.80	7.40	48.96	70.43	79.41	12.89	89.38	143.16	215.29	1,022	1,538	0.75	コモディティ・総合	S&P GSCI商品指数
GLD	SPDR®ゴールド・シェア	0.31	35.43	10.48	14.80	11.18	4.51	35.46	18.56	19.76	13.37	13.31	15.35	18.09	89.60	125.43	161.85	14.17	113.76	189.36	314.22	101,202	152,304	0.4	コモディティ・ 貴金属	金地金価格 (ロンドン午後決値)

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2024年7月末に1万円で積み立てを開始し、2025年6月末投資分までの2025年7月末における運用成果とする(2025年7月の積み立て額はいれない)。
出所: MorningstarDirect のデータを用いてモーニングスター・ジャパンが作成。MorningstarDirect!についてのお問い合わせはモーニングスター・ジャパンのお問い合わせメール(<https://www.ibbotson.co.jp/contact-us/>)にてお気軽にご返信ください。

